

総合的な学習の時間 - 5 (第2学年) 相互評価によって、互いの発表の改善を図る事例

【学習活動の概要】

1 単元名 フルーツの里のプレゼンテーションを作成しよう		
2 単元の目標 「フルーツの里」の名称の由来、果樹栽培が盛んな理由などの追究を通して、地域の気候や産業の特性に気付き、地域の産業振興に参画しようとする。		
3 評価規準 【関心・意欲・態度】 ・JA生産部の担当者などと地域の産業振興に取り組もうとしている。 【思考・判断・表現】 ・果樹栽培が盛んな理由や栽培方法などの聞き取った情報を整理して適切にまとめている。 【技能】 ・的確にメモに取り、それを分かりやすくパワーポイントにまとめて発表している。 【知識・理解】 ・果樹栽培が盛んな理由や果樹の栽培方法を理解している。		
4 教材 本単元では、地域の特産品である柿、梨、ぶどう、りんごの4種類の果樹栽培について調査活動を行う。特に、学校のある地域では西条柿の栽培が盛んであり、西条柿を用いた干し柿作りの体験活動なども行う。こうした体験活動を通して、この地域で果樹栽培が盛んな理由、実際の栽培の実態などを追究していく。JA生産部の方に聞き取りを行ったり、一緒に生産に携わったりするなどして、身近だからこそ疑問にも思わなかった地域に対する新たな気付きを生み出し、地域への親しみや愛着、誇りをもつ生徒を育てていきたい。		
5 主な学習活動 (1)単元の展開(全28時間)		
	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第一次	各学級で柿、梨、ぶどう、りんごの4つのグループに分かれて質問内容を考える調査する。(10) ・自分の興味関心から4つのグループに分かれ調査活動を行う準備をする。 ・各グループで質問する内容をまとめる。	・地域の柿、梨、ぶどう、りんごに関する知識を出し合い、不明な点を意見交換し、調査項目を考える。
第二次	果樹園または選果場に出向いて聞き取り活動や体験活動を行う。(8) ・事前にJA生産部に依頼し、期日を調整して、一斉に訪問する。 ・予め質問内容と担当者を決め、できるだけ全員が質問する。	・聞き取りの際には、調査項目に応じて質問をし、記録としてメモを取るようになる。
第三次	聞き取った内容をプレゼンテーションにまとめて提言を発表する。(10: 本時4・5/10) ・聞き取った内容を整理し、パワーポイントにまとめる。 ・各学級にある4つのグループがそれぞれパワーポイントを用いて地域の人に発信する。	・パワーポイントの作成では、文章は要点を整理し、簡潔にする。また、図や表を用いて視覚的にも分かりやすくすることなどに留意する。
(2)本時の学習 各発表に対する教師の評価と生徒の相互評価とを用いて、調査結果とその発表に関する優秀なグループを選出する。		
<p>各グループごとに発表する。 発表の後に、各グループの発表について評価する。 評価の観点は、「発表内容」、「発表方法」、「発表態度」の3つの視点で評価する。</p>		

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

中学校学習指導要領 第4章 総合的な学習の時間 第3の2の(2)において、「問題の解決や探究活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなど学習活動が行われるようにすること。」と示している。

体験したことや収集した情報を、言語により分析したりまとめたりすることは、問題の解決や探究活動の過程において特に大切にすべきである。そのためには、分析とは何をすることなのか具体的なイメージをもつことが必要となる。例えば、集めた情報を共通点と相違点に分けて分類したり、時間軸に沿って並べたり、原因と結果に分けたり、変化や結果を予測したり、現実社会の事象に当てはめたり、多面的・多角的に分析したりすることなどが考えられる。また、その結果を相手に分かりやすくまとめ、目的に応じて表現することが重要となる。

本事例では、調査結果を分かりやすくプレゼンテーションにまとめ、それを発表する。発表の場面において、相互に評価し合うことで、自らの発表を振り返ったり、互いの発表におけるポイントを再認識したりしていくことを期待している。

【言語活動の充実の工夫】 - 相互評価によって互いの発表の質を高める -

これまでの経験を生かした聞き取り活動を行い、そこで得た情報をパワーポイントにまとめる。

この活動では、まず、聞き取った情報を照らし合わせることを行った。必要に応じて、改めて電話で確認し、情報を正確に収集することの大切さを感じていった。

また、パワーポイントのスライド作成に当たっては、次の点に留意するように指導した。



伝えたい内容と全体の構成
分かりやすさにつながる簡潔な記述
図表や写真など資料の活用と配置
文字の大きさと色づかい及び背景色の意識
矢印などの記号の活用
効果的なアニメーションの活用 など

各グループのプレゼンテーションができ上がったら、学年発表会を行い、教師評価と生徒同士の相互評価を行った。評価の観点は、次の3つである。

発表内容：伝えたい内容が分かりやすくまとめられているか

発表方法：伝えたい内容にふさわしい発表方法が工夫されているか

発表態度：自信をもって、相手が聞き取りやすい発表をしているか。



それぞれを3点満点で評価するとともに、「良かったところ」と「改善すべきところ」を評価カードに記入する。また、評価カードは共有化し、地域の振興に対する考えを深めることに役立てたり発表の振り返りに生かしたりしていく。